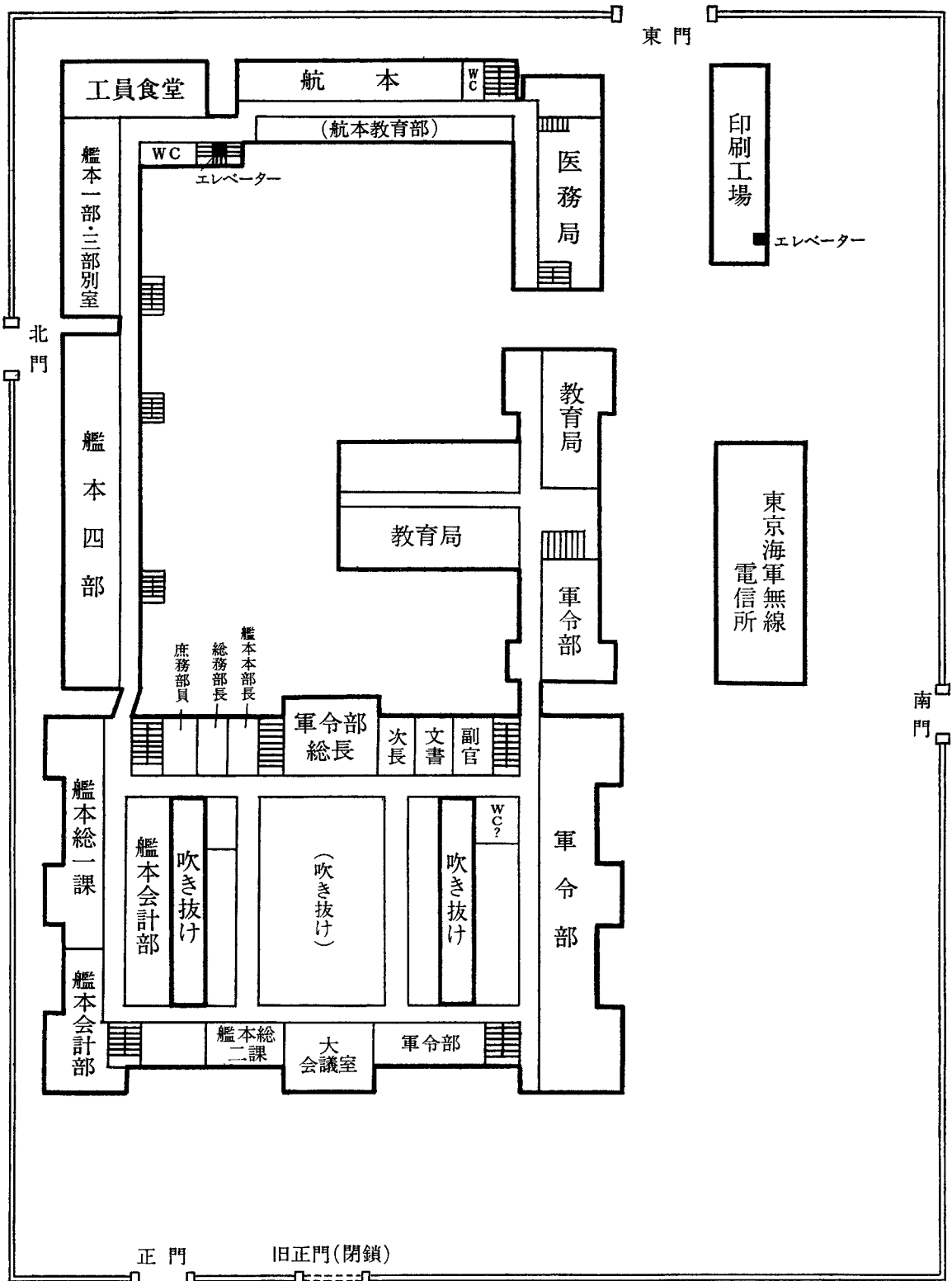


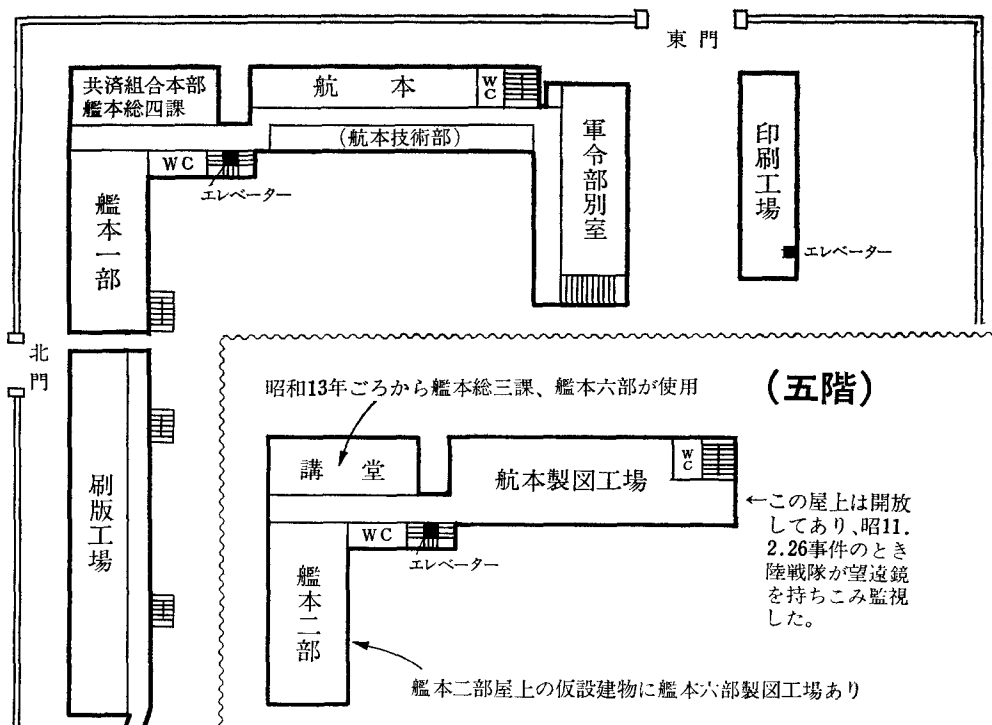
海軍省構内建物略図<昭10~14ごろ>

(三階)



海軍省構内建物略図 <昭10~14ごろ>

(四階)



(五階)

昭和13年ごろから艦本総三課、艦本六部が使用

←この屋上は開放してあり、昭11.2.26事件のとき陸戦隊が望遠鏡を持ちこみ監視した。

艦本二部屋上の仮設建物に艦本六部製図工場あり

【海軍省構内建物配置略図 (各階) について】

明治23年、霞ヶ関に海軍省庁舎および海軍大臣官邸を新築することが決定。25年8月に大臣官邸が竣工、27年に省庁舎(煉瓦造り3階建・建坪995坪)が竣工した。同年12月15日に赤坂葵町から海軍省・海軍軍令部が新庁舎に移転し、付帯工事を含めて28年3月に完成した。なお、海軍省庁舎新館(煉瓦造り3階建・建坪344坪)は、明治43年に竣工。その後、組織の拡大に伴って、ほぼ前掲各図のようになった。— 水交。45年8月号11頁参照—

しかし、省・部に勤務された人々も次第に鬼籍に入り、ある時期々々の正確な配置図も残っていない。前号掲載の「海軍省給仕物語」に関連して、現存の方々の記憶をもとに、何かの参考にと、この略図を作成した。

「海軍省構内建物配置略図」の説明と補足は、次のとおり。

- ① 大臣官邸は、当初煉瓦造り2階建・建坪259坪であったが、関東大震災で被害があり、後に本屋を平家に改築した。
- ② 昭和15年ごろ、海軍省本館・新館と艦政本部製図工場との間を結んで、艦本耐弾室(地上4階)と称する建物ができた。
- ③ 昭和15年ごろ、旧国会議事堂構内施設の一部を、海軍省と艦本の一部が使用することとなった。
- ④ 昭和17年3月、海軍省南側から旧国会議事堂構内東側に通ずる地下3階に、幅14m・長さ40mの防空壕ができた。
- ⑤ 昭和17年11月、海軍省東南角にあった衆議院議長官舎と、その前(日比谷公園西南角)にあった貴族院議長官舎が海軍省に引渡され、前者は昭和18年11月に海上護衛総司令部となり、後者は軍令部総長官舎として使用した。
- ⑥ 昭和18年ごろ、艦政本部・電波本部・航空本部の一部が、内幸町の日産館に移転した。
- ⑦ 日比谷公園の西南側(海軍省構内の東側)に、2階建のバラックが建てられ、東京通信隊の隊舎となった。